



since 1926

自分が好き 友だちが好き このまちが好き

横浜市立下野谷小学校

学校だより 10月号

令和2年10月1日

「人のつながりは想いもつながる」

がっこうちょう たかはし よしなり
学校長 高橋 義成

私が小学生の頃、いつも放課後は野球をしていました。学校から帰るとすぐ、自転車で乗り換えて一目散に潮田神社に向かいました。今よりも土の広場が広がっていたのを覚えています。近くにあるお店でコロッケを買うのも楽しみでした。時々、神社の中ではたこ焼きを売っていて、1個から買うことができました。潮田プールの出口付近では、ポン菓子を作っている方やソースせんべいを売っている方もおり、子どもの頃私にとっては、遊び場の拠点の一つでありました。

その潮田神社が今年、鎮座100年を迎えるとうかがいました。10月25日の午前中には、新たに制作した獅子頭を地域にお披露目するそうです。鶴見の町に良い運気の流れを連れてきてくれることを期待しています。本校では、令和元年度から、6月の地域行事がある日曜日を登校日とし、児童も教職員も地域と一体となって学びの機会としてきました。取り組んでみるといくつかの課題も見つかりましたが、得られた経験と学びはとても大きなものでした。今年度は残念ながら中止となりましたが、来年度の世の中の状況が少しでも前進していることを願うばかりです。

話は戻りますが、私は仲通にあった中山道場で柔道を習っていました。指導者は下野谷3丁目の魚春・ととやの永井良和様でした。実の兄である下野谷3丁目会長の永井和男様も道場の運営を支援されており、小学校時代にはお二人に大変お世話になったことを今も覚えています。夏は胴着が暑く、冬は畳が氷のように冷たく感じました。また、道場で迎えるお正月は、はだして総持寺までのランニングを慣例としていました。念のため、最後尾に車を走らせ、私のように根性のない子が「足が痛い」とリタイヤするために対応してくれていました。柔道では、年々、帯の色が変わり進級していきました。その道場で私が最も学んだことは、挨拶や礼儀、我慢強さなど、正しく、逞しく生きるうえでの基礎となるものでした。

今現在、毎朝学校の正門で永井会長と登校する子どもたちに挨拶をしています。すると、車の弟の良和様がクラクションを鳴らして挨拶をしてくれます。今も私はお二人からの愛情を受けながら、自分がいただいた指導を下野谷小学校の子どもたちに伝える思いで挨拶をしています。人が人を育てるということを直接教わった方と毎日お会いできることは、偶然でもありますが、とても感慨深いものでもあります。

昭和から平成、令和を迎える中で、この地域は温かい人情が残っている素晴らしい所だと痛感します。令和3年度は、学援隊の集会やふれあい給食、地域行事やしたのやまつりでの連携など、下野谷らしい特徴のある行事推進に向かいたいものです。今の厳しい日々の中で自分を大切にしながらも、相手への思いやりを大事にする子どもを育てるチャンスととらえ、教職員一同で力を合わせてまいります。今後とも保護者の皆様、地域の皆様におかれましてもご理解とご協力をお願いいたします。